

# 愛知県市場化テストモデル事業

## 愛知県

人口：7,145,614 人

面積：5,115.14 km<sup>2</sup>

### 取組の概要

平成 19 年度に市場化テストモデル事業として「旅券申請窓口業務」と「職員研修業務」について官民競争入札を実施し、平成 20 年度から業務を実施する。

### 取組の紹介

#### 1 取組の背景

「あいち行革大綱 2005」において、「民間活動主体が行政とともに協働する新たな地域経営システムにおいては、事務事業の遂行に当たっては、民間活力の活用を原則とし、民間委託、PFI の導入などにより民間の資金や経営ノウハウ、専門的な知識・技術等の積極的な活用を行っていく必要がある。」としていることから、公共サービス改革法施行を踏まえ、より良質かつ低廉な公共サービスを実現するため、市場化テストの導入に取り組むこととしている。

については、導入に先立ち、官民の公正な競争の実施等の制度設計を行う上での必要事項を検証するため、モデル事業として官民競争入札を実施することとした。

#### 2 取組の具体的内容

市場化テストの導入に向けて、監理委員会を設置し、民間事業者等からの意見募集やモデル事業の選定などを行った。

- 平成 19 年度予算「市場化テスト推進費」(1,257 千円)

##### 【主な内容】

##### 1 監理委員会の開催

業務選定、入札等の実施について、そのプロセスの透明性・中立性・公正性を確保するため、外部有識者で構成する愛知県市場化テストモデル事業監理委員会（以下「委員会」という。）を開催した。

委員会の役割

- ① 対象業務の選定

- ② 実施要項・落札者選定基準（評価内容）の検討
- ③ 業務実施予定者の選定
- ④ モニタリング（平成 20 年度予定）

## 2 意見募集の実施・対象業務の選定（対象業務の選定基準）

対象業務は、公共サービス改革法で規定された特定公共サービスとせず、モデル事業は確実に官民競争入札を実施するため、民間事業者等から提案のあったものの中から選定することとした。

については、すべての県の仕事の中から市場化テスト（官民競争入札）の対象とすべきと考えられる県の公共サービスについて、広く県民・民間事業者等の提案を募集している。その際には、行政評価調書を活用し、事務事業ごとの事業規模や現在の実施方法（直営・委託等）を明示した。

対象業務の選定基準については、民間事業者の創意と工夫により公共サービスの質の向上と経費節減が図られる業務とし、委員会の意見を聞いた上で「旅券申請窓口業務」と「職員研修業務」を選定した。

## 3 入札の実施と契約

### （1）業務実施主体選定の考え方（総合評価一般競争入札）

対象業務について民間事業者と対象業務所管部署の提案内容を比較し、質と価格を総合的に評価し最も有利な提案をした者を、委員会の評価に基づき決定した。

### （2）実施要項の主な記載事項

- ① 対象公共サービスの業務範囲（詳細な内容）及びそのサービスの質の設定
- ② 総合評価入札の落札者を決定するための選定基準
- ③ 官民競争入札実施担当職員と官民競争入札参加部門との間での情報遮断措置
- ④ 対象公共サービスに関する従来の実施状況

### （3）事務分担

実施要項等の作成（対象業務所管部署の協力の上）及び入札は、委員会での議論・検討を踏まえて、総務部総務課（官民競争入札実施担当部署）で実施した。

入札の結果、民間事業者が落札した場合は、対象業務所管部署が提案額に基づき予算要求し、契約の締結に関する事務及び指揮監督を行う。

## 4 モニタリング（予定）

当該公共サービス開始後、当該サービスが実施要項及び入札した条件に従って適切に実施されているか、定期的にモニタリングする。（官が落札した場合も同様）

## 【事務スケジュール】

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	20年度	
● 民間意見募集 3/23~4/25	● 委員会設置 ■ 第1回委員会	■ 第2回委員会		■ 第3回委員会	■ 第4回委員会	● 事業者募集	● 入札	● 選定結果公表 ■ 第5・6回委員会				■ 第7回委員会	業務実施
	業務選定	要項作成・入札準備		実施者選定					まとめ				

### 3 取組の効果

市場化テストは、これまで官がいわば独占的に実施してきた公共サービスについて、競争概念を導入するものであるが、今回民間事業者の創意工夫によりサービスの質の向上や経費節減が図られるだけでなく、競争的環境に置かれたことで、県自身も切磋琢磨し、様々な創意工夫を行い、努力する効果が図られた。

#### ○旅券申請窓口業務

- ・ 民間事業者4者の入札があり、県提案（県民生活課）と官民比較を行い、民間事業者を落札者として選定した結果、非常勤職員14名の事務量の委託化が図られた。
- ・ 1申請書あたりの処理時間（旅券申請の手續に要する時間の平均）について、落札者からは、業務及び県民サービスの質の向上に関する方策として、他の自治体での実績（3～4分）で培われたノウハウを活かし、県が定めるサービス基準（5分）を上回る提案がなされた。

#### ○職員研修業務

- ・ 民間事業者3者の入札があり、県提案と官民比較を行い、県（自治研修所）を業務実施者として選定した結果、正規職員2名、非常勤職員2名の削減（約2,450万円の削減効果）が図られた。
- ・ 県側からは、実施事項の工夫により経費を大幅に削減し、さらに効果測定とフォローアップの仕組みを新たに構築する有機的な研修の提案がなされた。

### 4 取組中の課題・問題点

#### ○対象業務の選定

- ・ モデル事業ということで、ある程度事務量のある業務、民間事業者からの入札参加が期待できる業務、単年度で実施可能な業務からの選定となった。

#### ○実施要項の作成

- ・ 従前の官のコスト算出の際に、管理部門の範囲の特定と当該業務の管理事務の事務量積算については、内閣府の指針をベースに算出した。

- ・ モニタリングや事業評価を実施することを実施要項に明記しているが、さらに質の維持・向上のためのインセンティブ・ディスインセンティブ（ペナルティ）の設定及びそれに関する委託料の支出方法について、検討する必要がある。

#### ○入札の実施

- ・ 官民競争入札の場合、対象業務所管部署は競争者となるため、入札者からなされた提案（企画）の審査に関われない。  
その一方で、実施要項で示した入札条件について、質問と回答の機会は設けているものの、官民競争入札が終わるまで発注者（所管部署）と民間事業者との間に協議・対話の場がなく、入札参加者にとって発注者の意図をくみ取りにくいなど、官民双方が納得できる方策を検討する余地がある。

## **5 住民（職員）の反応・評価**

本県では、市場化テストの導入を推進することとしているが、官民競争入札を実施する際の対象業務の選定や実施者については、いずれも委員会開催後に事後承諾というようなことにならざるを得ないため、当事者である対象業務所管部署の了解を得る方法については、試行錯誤の段階である。

なお、モデル事業の対象業務については、平成 20 年度から業務を実施するため、県民の意見はまだない。

その他、市場化テストの取組と平行して、県政モニターアンケートにより県の行財政改革について意見を聞いたところでは、「市場化テストを積極的に活用し、県庁組織のスリム化、高機能化を進めるべき。」との意見が述べられた。

## **6 今後の課題**

民間委託を行う際に、委託した業務について最終的に責任を負うのはあくまでも県であることから、委託元となる県が、業務を委託先に任せきりにすることなく、委託業者の業務内容を適正に管理・監督し、委託者としての管理責任を果たすことが必要である。このため、適切なモニタリングの実施やモニタリング手法の検討が必要である。

## **7 今後取り組む自治体に向けた助言**

民間委託の推進を検討するに際しては、目指すべき新しい公共空間を踏まえ、単に民間委託できるかできないかではなく、競争による業務運営の効率化や、公共サービスの水準の向上を実現するという目的に沿って対象業務を検討する必要がある。

実務的には、対象業務の選定に当たり、官民競争を視野に対象業務を限定せずに広く提案を公募する方法や、民間開放を前提に対象業務を特定した上で事業の提案を募集する方法などがある。

また、公正な官民競争を期すために、本県では選定基準を事前に公表しているが、その際に価格を重視するか、質の維持・向上を重視しているかなど、評価内容を含めて提示する必要がある。

**(参考) 当該取組内容の関連ホームページ**

愛知県における市場化テスト

<http://www.pref.aichi.jp/0000001718.html>

「あいち行革大綱2005」について

<http://www.pref.aichi.jp/somubu-somu/gyoukaku/taiko2005.html>

愛知県の行政評価

<http://www.somusomu.pref.aichi.jp/hyouka/index.html>

平成19年度県政モニターアンケート調査結果

<http://www.pref.aichi.jp/0000006792.html>

**担当部署：総務課**